

大切な人の最期は 宇宙へのお見送り

「お星さまになって、空から見守ってくれているんだよ」——。子どもなどに亡くなった方の行方を聞かれ、このように答えた方もいるのでは。

現在、「宇宙葬」と呼ばれる、新しい供養の形が注目されています。宇宙葬とは、遺灰を取めたカプセルをロケットに搭載し、宇宙空間へと打ち上げるもので、散骨の一種とみなされています。

宇宙葬にもさまざまな形があり、たとえば株式会社銀河ステージでは4つの宇宙葬のプランを提案しています。まず1つ目が宇宙飛行プラン。遺灰を取めたカプセルを商業用ロケットで打ち上げ、宇宙空間*到達後、地球に帰還するというもの。打ち上げの様子を遺族が見学することもできます。2つ目は人工衛星プラン。カプセルを人工衛星に搭載して打ち上げるもので、最長240年間にわたって地球の軌道上を周回します。人工衛星の現在位置はパソコンやスマートフォンのアプリなどを使って確



遺灰を搭載したまま、地球の軌道上を周回する人工衛星

認できます。3つ目は月旅行プラン。これはNASAの依頼により実施されているもので、カプセルをロケットに搭載して月面まで運びます。最後は宇宙探検プラン。カプセルを宇宙帆船(深宇宙探査機)に搭載して、宇宙空間へと打ち上げます。宇宙帆船は宇宙の果てをめざしていつまでも飛び続けます。

金額や打ち上げのタイミング、搭載できる遺灰の量はプランによって異なります。

夜空を見上げれば、懐かしい人に会える。一步未来に行く供養の形かもしれません。

※宇宙空間とは、国際航空連盟やNASAが定義する、「カーマン・ライン(海拔100km)」を越えた領域を指す

取材協力/株式会社銀河ステージ

故人の遺骨が 光り輝くダイヤモンドに

遺骨を埋葬することで、故人と物理的な距離を感じることもあると思います。そうした思いに寄り添う形の1つとして、遺骨をジュエリーにして身に付けるという方法があります。

アルゴダンザ・ジャパンでは「メモリアル・ダイヤモンド」として遺骨からダイヤモンドを製作するサービスを提供しています。

そもそも、天然ダイヤモンドは、自然界の中に存在する炭素成分に、ある一定条件で高温高压がかかったときに生成される鉱物です。一方、遺骨から製作されたダイヤモンドは、遺骨中の炭素成分に人工的に熱と圧力をかけて製造した合成ダイヤモンドであり、硬度や輝きは天然ダイヤモンドと同じものです。

メーカーによっては、遺骨50g分からダイヤモンドをつくることもできるほか、遺骨すべてを使ってつくることで、墓が不要になる点をメリットとと



遺骨を加工してアクセサリにした例

らえる方もいるようです。遺骨のほかに思い出の品などからも炭素を抽出し、遺骨とともにダイヤモンドにすることもできます。

大きさは遺骨の量によって異なりますが、0.1~1カラット程度まで作成可能。製作期間は3カ月~半年ほどかかるほか、金額はメーカーや大きさによって異なります。

また、出来上がったダイヤモンドを指輪やペンダントに加工することもできます。

亡くなったあとも、ダイヤモンドとして輝き続けながら遺族に寄り添えれば、亡くした寂しさを感じることは少なくなるかもしれません。

取材協力/アルゴダンザ・ジャパン